

IMF サーベイ

IMF・世界銀行春季会合

IMF、世界経済の回復の活性化のための一連の措置の提示

IMF サーベイ・オンライン
2013年4月20日



IMFCのシャムガラトナム議長（右）とIMFのラガルド専務理事：IMFCは加盟国に対し持続的回復を促すべく断固たる措置を取るよう求めた。（写真：Cliff Owen/IMF）

- フルスピードかつ持続的な均衡ある回復が不可欠
- 成長と雇用が主な懸念
- IMF、回復強化のためのアクション・プラン（行動計画）を提示

世界経済が不均一な回復途上にあるなか開催された**2013年**の春季会合を締めくくりにあたり、国際通貨基金（IMF）は、世界経済を均衡ある持続的な成長軌道に乗せるためには、政策を幅広く効果的に組み合わせる必要があると述べた。

ワシントンでの**春季会合**で行われた国際通貨金融委員会（IMFC）の協議では、成長の促進と雇用創出の必要性が極めて重視された。IMFCはIMFの政策諮問委員会である。

4月20日に行われた第27回国際通貨金融委員会の会合で議長を務めた、シンガポールのターマン・シャムガラトナム財務相は「我々は、成長と雇用を極めて重視して協議を行った」と述べた。

また同氏は「成長と雇用の達成は一つの政策のみに依拠するものではないとの強い認識が共有された。通常の経済成長を実現し雇用情勢をある程度正常化させるための唯一無二の特効薬は存在しない」と述べた。

強力なポリシーミックス

IMFのクリスティーヌ・ラガルド専務理事は、雇用の拡大を重視すべきだと述べるとともに、様々な政策を組み合わせることが、現在のスピードが「三極化」した回復を克服する上で有益だと述べた。2012年10月の東京での年次総会で行われた前回のIMFC会合以降、世界経済の回復スピードが、順調な国や地域、改善途上にある国や地域、そして遅れをとっている国や地域というように三極化している。

IMFC 会合の後記者会見に臨んだラガルド氏は「全ての政策担当者が、雇用の創出の問題に真剣に取り組んでおり、特に若い世代の要求に応えようとしている」と述べた。

同氏によると「成長と、一つの政策のみに頼るのではなく適切なペースでの財政健全化や構造改革.....そして余力を作り出す金融政策といった一連の政策を組み合わせる適切なポリシーミックスなど、雇用創出に有効な策はすべて協議の対象となっている」。

ターマン議長は、成長の押し上げのための政策が焦点だったと述べるとともに、短期的には緩和的な金融政策は適切だが、財政と構造政策の面でも措置が必要だとの IMFC の認識を示した。

同氏は「金融政策に過度に依存することなく、中期的な財政および構造改革に大きく重点をおくなど、金融、財政、そして構造面の戦略のより適切なバランスに重点が置かれた」と述べた。

持続的成長が焦点

IMF 加盟 188 カ国を代表する IMFC は [コミュニケ](#) で、一様ではない回復が明らかになりつつあるが、成長と雇用創出は依然として弱すぎると述べた。「持続可能な成長を促進し、世界経済の強靱性を回復するために、我々は断固たる行動をとる必要がある」

IMFC の今後の主な優先課題は以下のとおりとなっている。

先進国・地域。 緩和的な金融政策は成長の強化を支えるために依然として必要だが、信頼に足る中期財政健全化計画並びに金融セクター改革と構造改革のより強固な進展に伴われている必要がある。ユーロ圏においては、銀行のバランスシート修復、金融市場の分断の更なる縮小が重要である。

新興市場国・地域および途上国。 経済活動が持ち直す中、政策余地を再構築し金融の脆弱性を防ぐため、政策を測り直すべきである。

低所得国。 多くの低所得国において力強い成長が継続していることが、切迫するインフラ需要や社会的ニーズに対応しつつ、政策バッファーを補充する余地を提供している。IMF は低所得国のニーズに関連して、PRGT の持続可能性を注意深くモニターする必要がある。

強靱性の回復。IMFは状況に応じた政策アドバイスの基礎として、他の機関と協働の下、雇用と成長についての作業を継続すべきである。

IMF サーベイランス。IMFは、非伝統的な金融政策が資本フローと資産・一次産品価格に与える影響、為替レートの変動における資本フローが果たす役割、およびグローバルな流動性に関する更なる分析を行う必要がある。

ガバナンス改革。IMFCは、2010年の改革の批准に向けて必要な手続きを完了していない加盟国に、遅滞なくそれを行うよう求める。また、理事会が、第15次クォーター一般見直しの一部として新しい計算式に合意することを求める。

以上に加えIMFCは、IMFが[グローバル・ポリシー・アジェンダ](#)（以下ボックス参照）で示した方向性を歓迎した。グローバル・ポリシー・アジェンダとは、加盟国の政策上の優先課題とIMFの支援のあり方を示した行動計画である。

専務理事のグローバル・ポリシー・アジェンダ

2013年の春季会合においてIMFのクリスティーヌ・ラガルド専務理事が各国の政府高官に示したグローバル・ポリシー・アジェンダは、より強固かつ持続的な成長の促進には、断固たる政策措置が不可欠だとしている。

IMFの政策諮問機関である国際通貨金融委員会の4月20日の会合で提出された同アジェンダは、IMFの加盟188カ国の政策上の優先課題とIMFの支援のあり方を明示したもので、2012年の東京での年次総会で加盟国とIMFが協議した各種目標への進捗も報告している。

同報告書は、持続的な回復の活性化と世界経済の強靱性の回復に必要な一連の措置について分析している。

[グローバル・ポリシー・アジェンダ](#)を読む

関連リンク

[コミュニケを読む](#)

[ビデオを見る](#)

[春季会合ウェブサイト](#)

[最新の世界見通し](#)

[世界の回復を重視する](#)

[ラガルド：スピードが三極化した回復](#)

[国際金融システム](#)